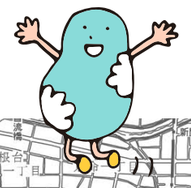
山崎川の水の旅ガイドマップ



1 猫ヶ洞池

尾張徳川家二代目藩主徳川光友の命令で農業用のため池として作られました。このため池には、雨水と湧き水の他、現在では東山公園内の上池（ボート池）からの水が新池を経由して流入しています。雨天時に一定水量を越えると千種台川へ放流されます。

2 暗渠（あんきょ）

猫ヶ洞池から田代本通4丁目付近までの山崎川は、一部暗渠（道路の下を川が通っている状態）になっています。以前はこのあたりでも川筋を見ることが出来ました。時代の流れの中で、山崎川の姿も様々に変貌してきたことが分かります。

3 鏡ヶ池

名古屋大学構内にある池で、山崎川の水源のひとつです。昔の航空写真を見ると、実は名古屋大学ができた当時からあったことがわかります。

4 地下鉄川名駅の湧水

地下鉄川名駅のトンネル内から湧き出ており、広路橋の下から山崎川に放流されています。川名公園の南側では、この湧水を活用し、保水性の高い舗装へと流すことで、路面を冷やす実証実験を行っています。

5 隼人池

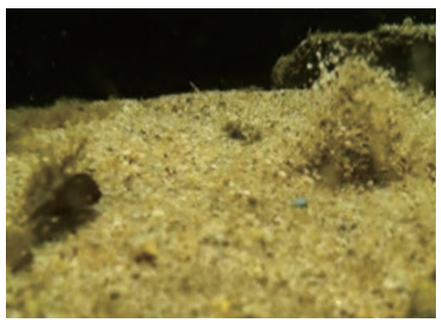
江戸時代、尾張藩家老で犬山城主の成瀬隼人正正虎が、藤成新田の農業用かんがいのために設けたといわれています。当時は、檀渓橋のあたりで筧（かけい）によって山崎川を横断し、新田に水が送られていました。

6 五軒家川

江戸時代の前期、このあたりには、五軒の家があったことから五軒家という地名が付けられたと言われています。五軒家川は隼人池を水源とし、出合橋付近で山崎川に合流しています。

7 山崎川の湧き水

石川大橋の上流部左岸、階段を下りた場所から川底をのぞいてみると、こぽこぽと湧き出る湧き水を見ることができる場合があります（6月～10月頃）。左岸（東側）の丘陵地帯に降った雨が、地下にしみこんで地下水となったものが湧き出していると考えられています。近くには、この湧き水と山崎川の鮎のことを紹介した看板が立てられています。



8 あゆちの水（伝承地）

尾張名水の一つで、万葉集に詠まれた「小治田（をはりだ）の年魚道（あゆち）の水」はここであるという説があります。直径1m、深さ3mほどの井戸は日照りが続いても水が枯れなかったと言われ、多くの人々が利用していました。戦後は荒れ果てたままになっていましたが、地元の有志の方々の協力により現在の形になりました。

9 年魚市（あゆち）潟景勝跡

昔、このあたりは、あゆち潟（現在の熱田区から緑区のあたりは、昔は海でした）、知多の浦を望む景勝の地であって、万葉歌人などが歌に詠んだところです。「あゆち」は「あいち」に転じ県名の語源となったと言われています。

山崎川の諸元
流域面積：26.6km²
流路延長：12.71km

河川・水路・ため池
河川・水路（暗渠）
代表的な桜並木
流域界
小学校区

山崎川のアユ

2019年7月　鼎橋下流で採捕

昔の山崎川は、きれいな水質が保たれ、大正初期までは、フナやシジミが獲れていました。しかし昭和に入ると流域の開発が進み、1960 年代には水質汚濁がピークを迎えました。その後、下水道の改善などにより水質が好転しはじめ、今ではアユの遡上も確認されています。

桜の名所

落合橋から石川橋までの 2.5 ㎞の間には、約 600 本の桜が植えられており、春には多くの方々が訪れています。特に、以前木造であったことの風情を残す鼎小橋の付近には、美しい花をたくさん咲かせる老木が数多く残され、川面と相まって見所の一つとなっています。

0　500　1000　1500　2000　2500　3000m

参考文献　千種区史、昭和区誌、瑞穂区誌、瑞穂区史跡散策路、南区史跡散策路、二級河川山崎川水系河川整備計画、名古屋市学校配置図　名古屋都市計画基本図［平成 27 年（2015 年）］